

KOGA IDOL

今月の古河っ子



石塚凛 ちゃん
(1歳6カ月・駒込)

とってもおしゃべりな凛。これから凛と会話ができるようになる事を、パパもママも楽しみにしているよ！元氣いっぱい、すくすく成長してね♥
(父：健太、母：利恵)



佐藤陽斗 くん
(7カ月・幸町)

パパとママが結婚して8年目に陽斗が生まれました。陽斗に会えるのをずっと楽しみにしていたんだよ。人にも動物にもあたたかい心で接することができる大人になってね♥
(父：桂一、母：亜矢子)



白戸心瑛 くん
(1歳8カ月・西牛谷)

いたずら好きの心瑛くん♥泣き顔や怒った顔、喜んだ顔全部が宝物です！これからも元気にすくすく育ててね！！
(父：政博、母：末紀)

お子さんの写真を募集中！＜対象＞0～3歳の市内在住のお子さん ＜応募方法＞メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、hisho.kouhou@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎秘書広報課)へ申し込みください♪



わたしの夢

みんなが笑顔で過ごす家を作りたい

岩田涼牙さん 古河第一小学校6年生

僕の将来の夢は、大工になることです。もともと僕は、手先が器用で何かを作るのが大好きでした。今は、宮大工になるか、家を作る大工になるかを考えています。

宮大工は細かいところまでとにかく正確に作るの、僕にとっては、すごくうれしい職業です。でも、家を作る大工もすごい責任があります。なぜならちょっとでもずれたら家が崩れてしまうからです。そのためにいっぱい大工の勉強をしようと思います。



キラリ☆輝く人たち

奥深い風景写真の世界へ

(左)金谷登 さん(女沼・67歳)

(右)吉岡久夫 さん(古河・75歳)

毎年12月に開催されている渡良瀬遊水地フォトコンテスト。平成29年度最優秀賞を受賞した吉岡さんと、平成28年度最優秀賞を受賞した金谷さん。数々のコンテストで入賞を重ねている2人に、写真への思いとその魅力について伺いました。



風景写真を専門に

金谷さんが写真撮影を始めたのは20歳の頃。列車が好きで蒸気機関車と風景を合わせて写真に収めるためでした。その後一時離れますが、47歳の頃に、本格的に風景写真を撮り始めました。

吉岡さんは、定年後に何か始められることを探していた時、魅力的な写真に出会いました。誰が撮っても同じものだと思っていた写真が、撮る人によってまるで違うものに見えることに気付いたことから、写真に魅せられたと言います。

日常で何気なく目にしている風景が、実は古河にしかない特別な風景だと気付くことが撮影のポイントだと教えてくれました。

気持ちを高め撮影へ

写真は構図が第一。「そこにはしかないもの」を大切にしておき、無意識にフレームをイメージして物を見るときは金谷さん。被写体は常に変化し、同じ写真は二度と撮れない、まさに一期一会ですと楽

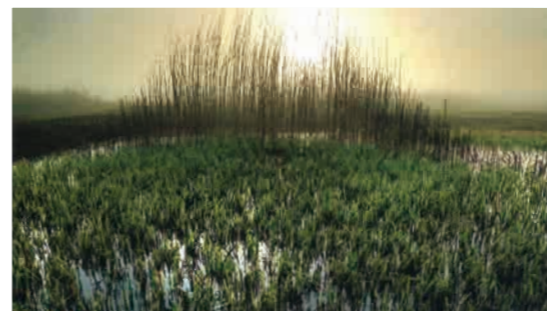


▲「静かに明ける」撮影：吉岡久夫さん

しそうに話します。

吉岡さんは、星を撮るときなど、撮影開始1時間前には準備を整え、時を待ちます。一瞬を逃さず、最高の状態を撮影するため集中力を高めま

す。息遣いも気になるほど静寂のなかでの撮影。構図、光、影、風、雲の流れ、そこにある全てが組み合わさることで最高の瞬間を捉えることができるそうです。



▲「序草」撮影：金谷登さん

その人の心が映るもの

数々の入賞作品を生み出している2人が口をそろえているのは、まだ道半ばであるということ。これからも自身の理想を追い求め、撮り続けたいと話します。風景写真は人生そのもので、時々心を反映するとこれまでを振り返ります。写真は、人により基準が異なり、正解のない奥が深い世界。「入賞は結果であり、目標ではない。これからも自分自身が納得できるものを多く残したい」と熱く語る姿が輝いていました。